

市民学コース ⑥ 富士見の歴史

中世から 現代までの「富士見市の民俗芸能」の歴史

第3回 富士見市近隣の民俗芸能

平成29年6月24日(土) 10時～12時 鶴瀬公民館

講師 三芳町立歴史民俗資料館 学芸員 ○○○○氏



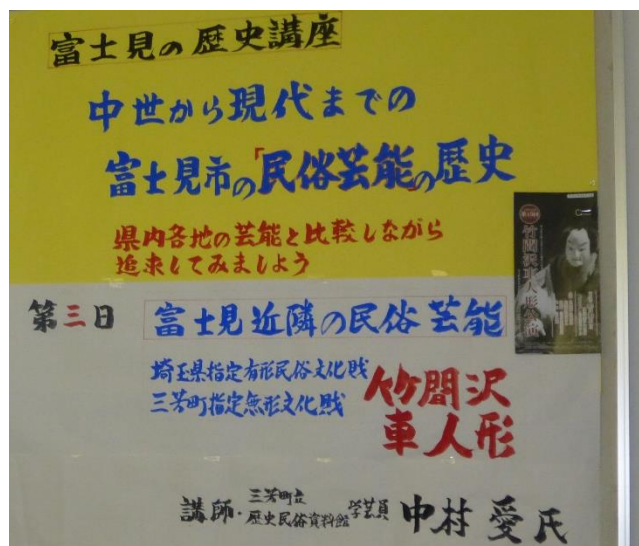
第3回目の講座には、38名の出席者がありました。三芳町立歴史民俗資料館学芸員の講師の方が休憩時間お話になり、受講生の熱心な勉強する姿に関心されておりました。スタッフとして、こんな嬉しいことはありません。受講生一人ひとりの方に感謝いたします。4回目、5回目の講座では、富士見市内の「難波田城資料館の学芸員の方」をお願いしておりますので、ぜひ、出席されまして地域の「郷土芸能」を知り、興味を持っていただけたら、と思います。

- ① 三芳ってどんな地域？
- ② 育まれてきた郷土芸能（お囃子・里神楽・車人形等）
- ③ 体感してみよう



講師 三芳町立歴史民俗資料館

学芸員 中村 愛 氏





三芳町の 郷土芸能

平成29年6月24日
富士見市近隣の民俗芸能



1 三芳ってどんな地域？

三芳町イラストマップ

【三芳町】

人口 約38,000人
世帯数 約16,000世帯
総面積 15.33km²

地勢 埼玉県南西部
志木市・富士見市・新座市・
所沢市・ふじみ野市・川越市に
隣接

沿革 明治22年（1889）
竹間沢・藤久保・北永井・上富
の4村が合併して、三芳村が発足
昭和45年（1970）町制施行



三芳の歴史と4つの地域の特徴

1 三芳ってどんな地域？

【竹間沢】



○湧き水が崖線に沿って湧き、柳瀬川に近く、古くから人が住み続けた地域

三芳の歴史と4つの地域の特徴

1 三芳ってどんな地域？

【竹間沢】




○いも残る「鎌倉街道」

○中世武士の信仰「板石塔婆」

三芳の歴史と4つの地域の特徴

1 三芳ってどんな地域？

【竹間沢】




○町内唯一、田んぼがあった地域

○竹間神社は、かつて「三十番神社」と呼ばれていた＝池上本門寺とのかわり？

竹間沢のお囃子

2 育まれてきた郷土芸能

保持団体：竹間沢共楽会

伝播の系統：神田囃子

流派：古囃子

伝承と沿革：江戸時代末期と言われているが、
詳らかではない。
大和田（新座）と雨粉（北海道）と
兄弟囃子

曲目と踊り：昇殿・神田丸・四丁目（裏手）
屋台・鎌倉・仁場・シャ切り
屋台＝「暴れ天狐」
四丁目＝おかしく踊る「外道」
仁場＝おかめ・ひよっとこ



竹間沢のお囃子

2 育まれてきた郷土芸能

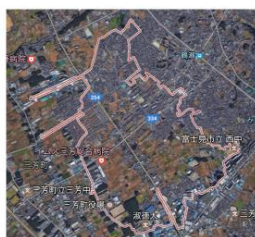


○天王様では、矢来棒（稲わらを干す
ときに使う）に太鼓をつけて各家を
周って、囃子を披露する



三方の歴史と4つの地域の特徴 【藤久保】

1 三芳ってどんな地域？



- 川越街道を挟んで成立した列状村
- 池のほとりの窪地から村が成立
- 川越街道の整備に伴い移転

三方の歴史と4つの地域の特徴 【藤久保】

1 三芳ってどんな地域？



昭和45年 川越街道

- 藤久保側「杉並木」、竹間沢側「松並木」
- 取り残され木宮稲荷神社の旗台



三芳の歴史と4つの地域の特徴
【藤久保】

木宮稲荷神社の祭礼
・4月20日（お囃子奉納）
・7月14日（天王様）お囃子奉納
浅間神社の祭礼
・9月下旬か10月（囃子奉納）



1 三芳ってどんな地域？

藤久保のお囃子

保持団体：藤久保芸能会

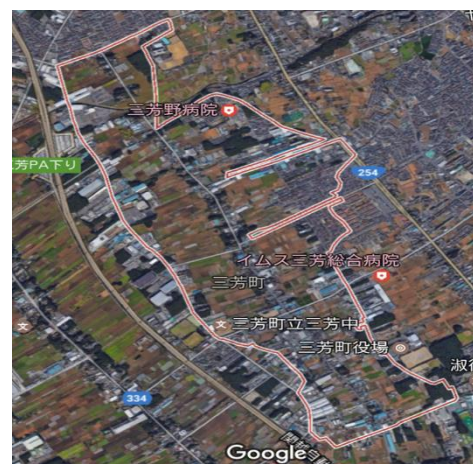
伝播の系統：神田囃子

流派：古囃子

伝承と沿革：明治20年前後頃に始まったとされる。
大正3年の祭礼を最後に、一端は
途切れてしまった。
戦後すぐ、古老に思い起こしてもら
いながら復活させた。

曲目と踊り：四丁目・屋台・宮聖天・大馬聖天
鎌倉・聖天・神田丸・ニンバ
屋台＝天狐
四丁目＝外道
仁場＝おかめ・ひょっとこ

2 育まれてきた郷土芸能



三芳の歴史と4つの地域の特徴
【北永井】

1 三芳ってどんな地域？



○尾張藩鷹場預御案内役
「船津重左衛門」家
→その後連合戸長など重役を担う



三芳の歴史と4つの地域の特徴
【北永井】

1 三芳ってどんな地域？

北永井稻荷神社の祭礼
・1月1日元旦祭（お囃子奉納）
・4月12日（春祈祷・お囃子奉納）
・7月25日（天王様）お囃子奉納
・隔年11月3日山車曳き廻し



竹間沢の里神楽

2 育まれてきた郷土芸能

演目：1曲1座

「天之岩戸」「稻荷山」「天孫降臨」
など、『古事記』『日本書紀』の神話を
原典とするもののほか、創作物など25幕

奉納のしきたり：清めの舞「三番叟」
→これを行わないとけがをする

氷川神社では「大蛇退治」を出す
が、八幡神社では「大蛇退治」は
ダメ

道具・面：神楽師が自ら彫る
→「太夫さんのところに行くと、顔を彫
られる」
衣装は必要に応じて作る



竹間沢車人形

2 育まれてきた郷土芸能

保持団体：竹間沢車人形保存会

伝承と沿革：神楽師前田左吉のもとに、西多摩郡二宮
村の「てい」が嫁入りしたことがきっかけ

「てい」の父親古谷平五郎は、説経師で
人形芝居の家元、六代目薩摩若太夫
でも説経節を語ることができた

嫁入り道具に人形芝居道具を持ってきた
このときは豆人形と言われている

ていの実家の協力もあって、人形芝居を
習得し、左吉（芸名 左近）を初代座元
として「吉田三芳座」を旗揚げ



竹間沢の里神楽

2 育まれてきた郷土芸能

保持団体：竹間沢里神楽保存会

車人形の操り方

車人形は、三人で操る文楽人形とは異なり、轆轤車にまたがって一人で操る人形芝居で、一人で操るといふ簡易さと速い動きが可能なのが大きな特徴である。

手 右手は操作者の右手で持ち、左手は首と一緒に操作者の左手で持つ。右手に付いたチョイを引くと手首・指が動く。左手からはひもが出ており、操作者の右手の親指に巻き付け、これを引くと手首・指が動く。

首 首と左手は共に操作者の左手で十字に持つ。首にはチョイが付き、チョイの操作で肩や首の上げ下げをする。

足 人形の足のかかどにはT字状の鉄金具が付き、これに操作者の足の親指をはさんで動かす。



神楽の
ではない。
土御門家発行の陰陽師
より「筑前」=祭祀に

お抱えの神楽師
開催

田の氷川神社
の祭礼に呼ばれて奉
、舞台でも披露

